

とっとり産業フェスティバル2010 ポスター発表

テーマ 鳥取の伝統的な産業と生活に根ざす居住・集落環境の保全活用
 -中山間地域の地域資源を活用した集落づくりのための基礎的研究-

発表者 兼子朋也 米子工業高等専門学校 建築学科 准教授

概要
 過疎化・少子高齢化により、農山村の居住環境や集落環境の維持・保全が困難となりつつある。一方で、都市住民の中では、グリーン・ツーリズムなど農山村で余暇を楽しむことや田舎体験・田舎暮らしへのニーズが高まりつつある。本研究は鳥取県の中山間地域の伝統的な産業と生活に根ざした居住・集落環境を保全し、その地域の資源を活用しながら、都市住民を含めた地域活性化の方策を検討しようとするものである。

平成 21 年度の研究成果をまとめると以下の通りである。

1) 古民家の活用と地域資源を活かしたまちづくり活動に関する事例調査
 日南町の大宮地区菅沢の民家 (M邸) は築 90 年を超える地域の有力な地主屋敷であるが、平成 19 年度に、農業体験ができる宿泊施設としてオープンした。これを村おこし、グリーンツーリズムの拠点としようとするものである。21 年度は、そこで行われている体験プログラムの検討を行った。



写真1 民家 (M邸)



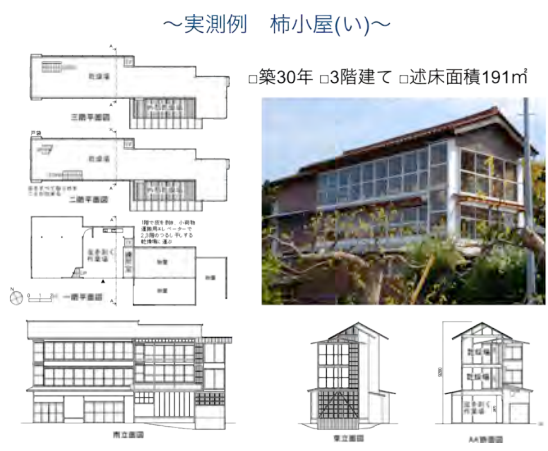
写真2 プログラムの実態調査



写真3 集落づくり活動への参加 (橋の設置)

2) 日南町の廃校の活用提案
 日南町の廃校となった小学校を調査し、地域の特性を考慮し廃校校舎の活用方法を検討し、提案した。提案内容は、林業・農業の後継者づくりのための長期・短期滞在型の学習施設と情報発信の拠点整備である。

3) 島根県東出雲町畑地区の干し柿づくりを中心とした生業と集落づくり・集落景観の分析
 中山間集落の地域資源を活用した集落づくりのモデルとして、島根県東出雲町畑地区を調査した。住民の集落や住まいに対する意識についてまとめ、「柿小屋」の実態とその特徴を明らかにし、干し柿作りと生活・気候・集落づくりのそれぞれの対応関係を検討し、風土に対応した集落づくりの事例としてまとめた。



連絡先: 米子工業高等専門学校 建築学科 准教授 兼子朋也
 米子市彦名町4448 TEL. 0859-24-5178 E-mail: kaneko@yonago-k.ac.jp

分野	建築	プレゼンタイム	無
----	----	---------	---